

平成19年第4回幸田町議会定例会会議録

(会期:12月4日～12月26日)

再開 午後 1時00分

○議長（笹野康男君） 休憩前に戻し、午後からの会議を開きます。

1番、酒向弘康君の質問を許します。

1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） 議長のお許しをいただきましたので、通告しました順に質問をいた

します。

心のふれあう健康で住みよいふるさと幸田を実現する。本町では、昭和63年にこの健康の町宣言をしてから、およそ20年が経過いたしました。その間、健康維持増進など、施設の整備と充実、そして多くのスポーツ行事や、一般教養講座、各種教室などの開催がされてまいりました。

その間、健康で明るく元気に生活できる社会の実現は、すべての人の心からの願いであると思います。昨年の住民意識調査で、町の将来像としてどのような姿を望みますかという設問に対しまして、答えは環境、福祉、安全・安心に続いてスポーツ活動、健康づくりに積極的な町と答えております。このことから、健康第1が住民の方々の大きな希望のキーワードであることがわかります。

健康増進の考え方は、1946年にWHOが提唱した、健康とは単に病気でない、虚弱でないということのみならず、身体的、精神的、そして社会的に完全に良好な状態を指すという健康の定義が出発点となっております。

70年代になりますと、それまでの行きすぎた高度医療に対する反省から、医療の重点を疾病一時予防へ転換することがWHOから提唱されました。90年代には欧米各国で社会環境の整備と改善によって、国民の健康を改善しようとする新たな健康政策が発表されています。最近の我が国では、平成12年、21世紀における国民健康づくり運動として、健康寿命の延伸と壮年期死亡の減少を目指す健康日本21が策定されました。既に、宮崎県都城市や、岐阜県岐阜市、新潟県上越市では、健康づくりを最重要課題として位置づけた施策を行う自治体も多く、この動きはさらに全国各地に広がりつつあります。

愛知県においても、すべての県民に健康をスローガンとして、すこやかで活力ある長寿社会の実現のため、健康日本愛知21を策定いたしました。そして、本町においても、みんなではぐくむ健康こうた21計画を平成17年度から22年度までの6年間を計画期間と定め展開をされております。そして、本年度はその中間年にあたり、中間評価及び計画見直しをする年となっております。

人間は、規則正しい生活をしていれば、120歳まで生きる能力があるようであります。我が国の平均寿命は世界一長く、医療費や介護費がかかる高齢者の人口が急増しております。医療費の多くをしめる脳卒中、高血圧症、糖尿病などはその原因が生活習慣に起因することが多く、日ごろの食生活、運動習慣、喫煙習慣などを振り返り、健康的な生活習慣を身につけることが大切であります。

こういった中で、政府が平成17年末に決定した医療制度改革大綱の中で、改革の狙いは医療費の急増に対して、疾患の予防対策に力を入れ、医療費の増加に歯止めをかけていこうとするものであります。国は国としての計画を立て、都道府県も地域の実情を考慮して、都道府県計画を策定し、市町村もそれぞれの計画を立てる仕組みになっていきます。

今回の医療費制度改革では、都道府県ごとに健康診断受診率の向上、生活習慣の適正化に対する保健指導の実施などを数値目標にする医療費適正化計画を策定し、5年ごとに計画を更新するということがされており、目標の達成状況に応じては、後期高齢者保

険者支援金に差をつけることも検討しているようであります。

要するに、予防事業に力を入れて、医療費が低下した都道府県や市町村に対しては、保険者支援金を増額するなど、何らかの見返りがあることも期待されるようになるかもしれません。そんなことを申し上げ、大項目の一つ目の質問をいたします。

みんなではぐくむ健康こうた21計画の子供、働き盛り、熟年の三つのライフステージごとの現状について、また中間年としての中間評価、計画見直しの部分にも触れながら答弁をいただきたいと思っております。

まず、子供の健康づくりについて、子供の健康の現状データを見てみますと、自分のことが好きと言えるという小学生が67.2%ですが、中学生になりますと32.5%と数字が大きく変化しております。この数字について関心を寄せねばならないと考えております。この結果に対して、その後の現状とどのような取り組みをされているのか、お聞きいたします。

次に、体の健康の目標として、よい生活習慣を身につけ、丈夫な体をつくるをあげられております。朝食を欠食する小・中学生はそれぞれ0.5、3.6%という数値になっております。先日の町内の小学校を視察をした際、ある小学校では、早寝・早起き・朝御飯をスローガンに掲げられているところもありました。現状と取り組み後の推移はどうなったかお聞かせください。

次に、働き盛りの人の健康づくりについてであります。まず、健康指標にあります近所づきあいをする人の割合は47.6%、そして区の行事に参加している人の割合は37.2%という数値であります。文字どおり、働き盛りの年代であり、なかなか時間の調整もできにくいと考えます。

内閣府が11月18日付で発表した、家族、地域に関する意識調査で、自分と地域の人たちとのつながりは弱い方だと答えた人が52.5%と過半数を超えております。住みなれた地域で、健康で生き生きと生活していくことが心と体にも豊かな暮らしだと考えます。町として目標値を40%以上と設定をされておりますが、現状と施策をお聞かせください。

健康面については、最近ではメタボリックシンドロームという言葉も大変よく耳にするようになり、聞きなれてまいりました。意味は、我が身にしてみても重く感じております。現代人の食生活と運動不足による内臓脂肪の肥大が高血圧などのリスクと重なって、さまざま心臓血管系の病気を引き起こす症候群と言われております。平成17年10月1日現在の国勢調査において、40歳から74歳におけるメタボが強く疑われる人は約920万人、予備軍は980万人であり、合わせて約1,900万人が推定されております。

ことしの6月21日に発表された厚生労働省の国民健康栄養調査によりますと、40歳以上の男性の2人に1人、また女性は5人に1人がメタボが強く疑われるか、あるいはその予備軍という結果となりました。前段で、治療医学から予防医学への転換という話題にふれましたが、来年の4月から新たに特定健康診査等及び特定保険指導が実施される計画であります。

具体的には、早期発見と保健指導により、生活習慣病患者とその一歩手前の状態の予

備軍を25%減らすことが国の目標値とされており、先日、町民会館で開催されました有森裕子さんの講演会でも、何事も頑張ること、続けること、それと周りの人を含めた環境の大切さを自分の生き立ちと選手生活の経験から厚く訴えられておりました。

厚生労働省も一に運動、二に食事、しっかり禁煙、最後に菓のスローガンをあげております。本町のデータでは、運動習慣のある人は31%と3分の1に達しておりません。また、運動不足と感じている人の割合は75.5%であり、70%以下の目標に対して、どのような施策を展開し、その効きぐあいと現状についてお聞かせください。

次に、熟年の人の健康づくりについて、本町のアンケートで生きがいや趣味のある人の割合は60歳代で68.5%、70歳代で52.9%であり、高齢になるに従い、生きがいや趣味のある人が減少してきております。目標値を80%以上と設定されておりますが、どんな施策を展開され、その効きぐあいと現状についてお伺いいたします。

次に、大項目の2点目であります。公園、グラウンドの整備状況について質問をいたします。私もことし誕生月の10月の定期健康診断で、運動不足から高脂血症と診断がくだされ、もっと運動しなさいと指導を受けました。このため、なるべく時間をつくって、夜ここの庁舎の隣の中央公園でグラウンドの外周を回るウォーキングを始めました。夜でもウォーキングやランニングをしている人も多く、また腹筋ベンチ、背伸ばしベンチが設置してあり、ウォーキングの合間に利用をしております。

これらの健康遊具は安全であり、自分の身体に合わせて利用をすることが可能であり、健康維持に有効な遊具だと考えます。現在、町内の公園及びグラウンドにこういった健康遊具を導入、設置してあるところと台数、どんな器具名か、どの状況をお聞きいたします。

町が示す今後の計画推進のスターティング事業の中の、健康こうた21計画の中に、運動のできる環境の整備をします。健康の道やウォーキングコースなどの整備をしますと明記されております。本町の自然に恵まれた環境を生かし、多くの人が気軽にウォーキングに取り組めるように、町内6小学校区の代表的コースを紹介し、そのウォーキングマップの作成をされましたが、そのマップと実際のコースの活用状況はどのようになっているか、お聞かせください。

本町で唯一の幸田町健康の道は、南に三河湾、西には三ヶ根山と、海と山に囲まれた三河湾国定公園の中央に位置し、とぼねグラウンドを起点として大井の池まで全長7.9キロメートルのコースがあります。この自然豊かなコースは、毎週歩かれるグループや、家族連れにも町内外を問わず人気のコースであります。私も先日、この健康の道を歩きました。頂上に近い3.3キロメートルの見晴らし地点では、眺めがすばらしく、視界にはここ幸田町役場を中心とした町の姿が眼下に広がり、渥美半島から知多方面、さらに名古屋方面を臨むことができる、本当に気持ちのよいウォーキングコースでありました。

この健康の道の愛好者の方から、次のような要望や意見をいただいております。生の声であります。参考までにお聞きください。木製ベンチが朽ちていて、気持ちよく利用できない。特に、頂上付近は頂上らしく整備してほしい。距離の標識がなくなったりして見えなくなっています。不動ヶ滝から奥へのコースの道案内がないです。コ

ースの途中にトイレがない。車も通るため、安全面に不安がある。草が生い茂り、危険な時期があり、一人では心細い時がある。途中、清水が数カ所出ているが、飲んでも大丈夫ですか。2キロメートル付近に不法投棄と思われる乗用車が2台放置してあります。町民として、他に誇れるような立派なコースにしたい。以上のような声を質問としてまとめました。

質問1、廃棄車両の処置、ベンチ、標識、トイレ、清水などの整備計画をお聞かせください。

質問2、草や樹木の定期的手入れ、コースとしての交通安全面の整備計画、この2点について、対応の答弁をお聞かせください。

次の質問であります。現在、南部地区に深溝グラウンド、仮称かと思いますが、本年度末の完成を目指して工事が進められております。南部地区では、本格的なグラウンドとして、また、みんなが集える公園として住民の期待と関心は非常に高いものがあります。この公園及びグラウンドの建設に向けて、健康維持、健康づくりの一環として、みんなではぐくむ健康こうた21計画を見据えた試みや工夫などはありますか、お聞きをします。

以上、1回目の質問を終わります。

○議長（笹野康男君） 答弁を求めます。

健康福祉部長。

○健康福祉部長（首部年秀君） それでは、酒向議員の質問にお答えをします。

まず、みんなではぐくむ健康こうた21計画であります。すべての町民が健康で心豊かに幸せで楽しい暮らしをおくれるまちづくりを目指し、生活習慣病の予防、健康寿命の延伸、生活の質の向上を図ることを目的として、町民一人一人が健康づくりに主体的、積極的に取り組んでいくとともに、ボランティア団体や関係行政機関が連携をし、町民の将来を通じた健康づくりを支援することを目的に、平成16年度に作成をいたしました。

作成に当たっては、町民1,000人、小学5年生、中学2年生全員にアンケートをお願いをして、住民からの公募の医院も含めたワーキング部会を8回開催をし、広く町民の意見を反映した内容としました。内容としましては、平成17年度から平成22年度までの6年間の計画期間と定め、人間の一生をライフステージごとに分けて、それぞれに心の健康と体の健康の目標、取り組みの内容を明確にしましたところであります。

今年度は、中間評価、計画見直しの年であり、町民同じく1,000人、小学5年生、中学2年生全員のアンケートを既に実施をし、その結果が出たところでありまして、その評価につきましては、これからの私どもの作業ということになります。

さて、ご質問の第1の自分のことが好きと言える小・中学生の割合というのは、ことしのアンケート結果では、小学5年生では3%、中学2年生では10%の増加となりました。

次に、朝食を食べない小・中学生の割合は、小学生では2人から4人に変わりました。中学生では12人から11人に減りました。バランスの取れた食事の知識の普及啓発、子供の料理教室の開催、食育の推進、学校保健との連携などの取り組みを進めていきた

いというふうに考えております。

次に、働き盛りの人の健康づくりのうち、区の行事への参加の割合は4%減少して33%でありました。また、運動不足と感ずる人の割合は5%増加をし、80%、運動不足と感じる人の割合が80%、高率の結果となりました。仕事が忙しくてそれどころではないというのが実態であるかと思われますが、引き続き計画の推進を図っていききたいというふうに考えております。

熟年世代、主に高齢者であります。生きがいや趣味のある人の割合は、60歳代では74%、70歳代では79%といずれも大きく伸びました。今年度の中間評価にあたり、健康指標が目標値に達していないものは達成できるように施策の検討をし、また、新しく目標値とすべき内容の充実も図りながら、関係機関の意見も反映させて、町民の健康づくりの基本計画として中間評価見直しをしていききたいというふうに考えております。

次に、ウォーキングマップの活用であります。この健康こうた21計画の中のスターティング事業として位置づけをして作成をしてきたものでありますけれども、18年の3月に作成をしました。各学区一つのコース、全6コースであります。作成部数につきましては、2,000部を作成しまして、現在、1,000部を町民の皆さん方に配布をしまして、残りはまだ1,000部残っておるわけですが、ウォーキング講座や健康事業の中で配布をし、活用しております。町民向けに希望者や健康福祉まつり等のそういうイベントの時にも広く配布してまいったところでもあります。広報等でコースの紹介、県の健康21計画ウォーキングコース紹介冊子にも掲載をされております。県の健康プラザネット等でもPRをされておるところであります。

次に、健康の道整備計画でありますけれども、廃棄車両の処理につきましては、所管に対応を連絡をしてありますけれども、民有地で撤去がなかなか難しいということでもあります。健康の道の美観保持の面から言っても、注意をし、対応をしてまいりたいというふうに考えております。

ベンチ整備につきましては、現在、コース中2カ所利用可能になっております。今後、設置数、設置場所等必要性も考慮し、修繕も含め対応をしていききたいというふうに思います。

標識の整備については、平成15年、18年度に案内標識を2基修繕をいたしました。三角柱は今年度と来年度で修繕をする予定にしております。

トイレ整備については、今年度、不動ヶ滝のトイレを改修をする予定にしております。

清水については、わき水ですね、については、水質検査を環境課が平成18年度と本年度、19年度実施をしまして、18年度につきましては大腸菌が出ました。19年度につきましては、飲料として適合であるというふうに出ましたけれども、あまりお勧めするものではありませんが、あくまでも自己責任でお願いをしたいというふうに思います。

草や樹木の手入れについては、林道であり、定期的な手入れは非常に難しいですが、危険性や緊急性等、状況に応じて林道所管課の協力を得ながら対応していききたいというふうに思います。

交通安全面については、林道であって車両通行止めというわけにもいきません。利用

者はもちろん、運転者にも注意するような看板等でPRの方法を検討しておきたいというふうに思います。

以上であります。

○議長（笹野康男君） 建設部長。

○建設部長（松本和雄君） 健康遊具の設置状況でございますが、幸田町におきまして、都市公園が16カ所ございますが、このうちで遊具を設置してあります公園は14カ所でございます。14カ所遊具が設置してあるわけでございますが、その設置してある遊具につきましては、子供を中心といたしますすべり台等の遊具が大半でございます。健康遊具につきましては、ただいま議員の言われましたように、役場東側の中央公園に2基設置がしてございます。設置してございますのは、背伸ばしのできるベンチと、それから腹筋運動のできるベンチ、公園の対角線上に1基ずつ設置してございます。これにつきましては、平成17年度に設置いたしました。町内の都市公園に關します健康遊具の設置状況はその2カ所のみでございます。

以上でございます。

○議長（笹野康男君） 教育部長。

○教育部長（鈴木 悟君） ただいまの建設部長と同じように、教育委員会が所管しております既設のグラウンド等につきましては、坂崎、とぼね、そして大日蔭の3カ所のグラウンドであります。基本的にはスポーツ施設を中心にして設けてございます。3カ所のグラウンドには、遊具が設けてある施設はなく、よってご質問の健康遊具等については、3カ所の施設とも設置してないのが現状であります。

以上です。

○議長（笹野康男君） 環境経済部長。

○環境経済部長（鍋田堅次郎君） 深溝運動場についてご質問がありました。ご質問の中にありましたように、本年度、農村振興総合整備事業の最終年、3月の年度末をもって完了をいたす予定であります。施設は、三ヶ根駅の方から行きますと、町道が行き止って、温泉のところから行き止ったのを、農面道路の方へつけまして、北と南に大きく分かれてますが、北側の方が散策道路、菅師の大池の方へ向けて700メートルの散策路、東屋や八つ橋のようなふれあいといった農村公園施設、それと、南側がソフトボール2面の多目的広場を中心とした農村交流施設という形で農水省の補助をいただいて、駐車場については、約80台、それからわんぱく広場と言って、東屋もつくってありますが、芝を張って築山のようにして、子供たちに遊んでいただく施設。外周、ソフトボールの周囲には、クレー舗装で外周450メートルの、ウォーキングに適するかどうかは別としまして、そういった施設整備を行っております。

お話のありました、みんなではぐくむ健康こうた21の目標達成に具体的な試みや工夫はあるかということですが、この施設を大いに活用いただくことが、この目標にかなうのではないかな、こんなふうに思っております。

○議長（笹野康男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） それぞれの質問に対しまして、丁寧な回答をいただきました。

子供の健康づくりについては、学校、家庭、地域がしっかりと連携をした見守りと、

支え合う体制、確立をしていくことが大切であると考えます。また、朝は1日の始まりであります。朝食は1日のエネルギーのもとでもあると同時に、家族のコミュニケーションの確認の場ということでもあります。望ましい食習慣を子供のころから見つけてやることが、心と体の成長には極めて重要だと思います。

次に、働き盛りの人の健康につきましては、毎日が多忙で働き盛りの年代の方々には、いつでも手軽に時間の融通のきく健康づくりの施策推進を強く希望するものであります。そうすることで、心のストレスも軽減されればと願うものであります。熟年の人の健康づくりにつきましては、生きがいや趣味のある人の割合は高齢になるに従い増加していくようなまちづくりの取り組みの推進、以上、4点については、中間年で数値が低下しているものについては、新たな取り組みが必要かと考えます。行政、関係団体のさらなる取り組みの強化を希望するものであります。

本年度は、みんなではぐくむ健康こうた21計画の中間評価、計画の見直しということ为先ほどから言っておりますが、計画が策定されている段階で、ワーキング部会で大変熱心かつ活発に進められたということをワーキング部会の方から伺っております。

計画策定段階では、住民の方から貴重なデータをいただいたわけではありますが、中間年のこととしては、その後の状況をつかむための健康アンケートを実施されており、その結果に基づいて計画の見直しをされると思いますが、どのようなやり方でどのような点を留意され、実施をされるのかお聞きいたします。

また、提案として、このみんなではぐくむ健康こうた21計画を広く町民の方にしっかりと実施されている事業内容や、参加された方々の意見、住民の健康状況、今後の計画、それを開示すること、そして、普及の情宣としまして、保健センターから発行される保健事業のまとめとは別に、住民の皆さん向けに見やすく、理解しやすいダイジェスト版のような広報紙などの発行を期待するものであります。その考えはあるか、お聞きいたします。

次に、健康の道やウォーキングコースなどの整備についてであります。先日、中央公園のグラウンドの外周をウォーキングされている女性に、この外周は何メートルですかと尋ねたところ、さあわかりませんと言われました。そこで私は、1周何メートル、ウォーキングで何キロカロリー消費とか、表示されるといいですよと言ったところ、それはいいことですね、目標にもなるし、励みにもなりますと気持ちよく言われました。健康の道やウォーキングコースなどの整備に絡めて、コストのかからないコースの整備として、例えば100周でフルマラソンコースとか、毎日5周で、1週間で幸田から札幌まで完走、あるいは毎日10周、1年間で本州縦断などと言ったような目標が立てられるウォーキングやジョギングができる工夫のある施設、公園、グラウンドづくりを押し進めてもらいたいと思います。

静岡県に行きますと、ピクトパネルという使用説明板でしっかりといろいろ表示をされているウォーキングコースや公園も多く見かけます。本町においても、そういった整備も積極的に進めていただきたいと提案をいたしますが、考えをお聞かせください。

また、完成間近の深溝運動場のもとには、本町で唯一の天然温泉の施設がありました。ことしの7月の初旬で営業が止まっております。せっかくの施設であります。住民

の方からは、これから温泉はどうなっちゃうんですかという問い合わせも多くあります。何かグラウンドの整備とあわせ、再利用の計画などはできないのでしょうか。南部地区の活性化もあわせ、今後の検討はなされないのか、お聞きをいたします。

次に、公園に高齢者向け健康遊具の導入についてであります。少子高齢化を反映してか、街角の公園が様変わりし始めております。これまで、公園の遊具と言えばブランコやすべり台など、子供向けのものが中心でしたが、最近では高齢者向けの健康遊具を設置する公園が増え始めております。早朝のラジオ体操の前後や、昼下りの軽い運動、夕方の散歩の後に利用するシニア年長者が増えており、乳幼児とお母さんにとって登竜門であった公園デビューは、今や高齢者も元気に公園デビューする時代になってまいりました。

各地の公園では、高齢者向け健康遊具の導入は背伸ばしベンチなどの初歩的なものから、十数種類からなる本格的な介護予防公園など、千差万別ですが、各自自治体の創意工夫で着々と導入が進んでおります。国土交通省は、1998年度から3年おきに都市公園の遊具施設に関する調査を実施していますが、年々ゆりかご方ブランコ、つり輪、回転塔などが減少し、一方健康遊具は32.9%と遊具の中ではトップの増加率を示しております。子供たちで安全・安心して遊べる公園と同時に、お年寄りも元気はつらつ集える公園にするために、今後、背伸ばし用ベンチ、マッサージベンチ、バランス器具、足つぼ歩道など球が回転したりスライドしない安全な固定式の健康器具は設置に対してもイニシャルコストが比較的安く、寿命も長い上、維持費も低コストで済むのではないかと思います。ぜひ、今年度完成予定の深溝運動場を皮切りに、町内全域に広く設置を希望するものであります。子供中心の公園から、障害者、高齢者、子供までを考慮した人に優しく思いやりを感じてもらえるユニバーサルデザインの公園づくりが必要であるかと考えます。今後の設置の考え方をお聞かせください。

以上、第2回目の質問を終わります。

○議長（笹野康男君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（音部年秀君） 健康こうた21計画であります。これが平成16年度に作成をしたものでありますけれども、先ほど申し上げましたように、住民の皆さんのかなりの多くの意見を反映をし、この策定についても、関係者の皆さん方に協力をしていただいてつくってきた経過があるわけであります。

それで、ことし中間評価でありますけれども、これは当然、またアンケート結果に基づいたチェックもし、そして検討委員会や、あるいは健康づくり推進協議会という既存の組織もある、住民の方々も含めた組織もあるわけでありまして、そういう中で、この見直しを進めてまいりたいというふうに考えております。

それから、ダイジェスト版を作成したらどうかというご提案でありますけれども、この当初、これをつくる時にはダイジェスト版を作成をし、全戸に配布をしました。しかし、今回、予算上そのダイジェスト版をつくるという予算は予定をしておりませんでしたので、計画書は100部作成をして、また皆さん方にもお配りをしますけれども、ホームページなどにも載せたり、広報にも載せて、そして広く住民の皆さんにお知らせをしていきたいというふうに考えておるところであります。

以上です。

○議長（笹野康男君） 環境経済部長。

○環境経済部長（鍋田堅次郎君） 深溝運動場、深溝グラウンドについて提案されました。

ウォーキングの距離の表示等につきましては、散策路もつくりましますし、先ほど来お話ししたように、グラウンドの周囲もクレードル舗装して歩くような場もつくりましますので、そういったものの設置については、検討をいたしていきたいと思っております。

それから、深溝運動場にあわせて、温泉施設にも触れられましたので、私が答弁するのがいいかどうかは、行きがかり上答弁させていただきますが、民間施設でありますので、せっかく出た天然温泉で、議員のお話の通りもつたいない施設だと思っておりますが、その運営そのものについては、民間の施設として、町がそのことを今検討するということはいたしておりませんので、ご理解がいただきたいと思っております。

それから、3点目のユニバーサルデザイン、あるいは健康機器を、遊具を深溝グラウンドを皮切りにと、こういうことですが、今少し困ったなと思うのが、実はふじ柵が二つつくってありますけど、あの下にはベンチが設計上みてありますが、そういったベンチになってないものですから、非常にこの答弁をするのに、設計変更が可能なのかどうか、それも含めて確認をいたしたいと思っておりますが、現段階では、そういったことについて考慮はされておきませんので、ご理解がいただきたい。

○議長（笹野康男君） 建設部長はおおですか。中央公園の件はだれがやる。

建設部長。

○建設部長（松本和雄君） ただいまの答弁で、総合的に答弁をしていただきましたので、よろしいかと思っておったんですが、中央公園の整備につきましても趣旨は同じでございますので、非常に今多くの方々がウォーキングで使っていただいております。そうした中で、1周何メートルかというような表示については、今後、ほかの整備とあわせて検討していきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（笹野康男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） 最後の質問をいたします。次の2点を提案いたしたいと思っております。

まず、こうした健康の日の制定の提案についてであります。愛知県は、毎月第3日曜日を県民健康の日として制定しており、近隣では豊田市、春日井市、尾張旭市なども市民健康の日として市民に家族、地域で健康について少しでも考えてもらえる機会をと設定されております。

幸田町においても、健康の日を設定され、コストのかからない、コストのかかる大きなイベントを計画するのではなく、自分、家族、地域の人の健康を考える機会を増やして、健康について何かを始めるきっかけになるように、地域交流を図りながら、自分に適した健康法を実施する日として、こうした健康の日の制定を提案いたします。

もう1点、深溝公園の運動場の名称についての提案であります。健康を全面に出したネーミングであります。深溝健康公園グラウンドとか、幸田南健康公園グラウンドなど、健康をアピールしながら住民の多くの方々に広く利用してもらえるような名称にする考えはないですか。

最後に、現在町内にはプールとか、あるいは体育施設など健康づくりにつながる社会

資源が点在しております。町民がそれぞれ生活圏域に合わせて、いつでも利用できる環境づくりが必要だと思います。守る健康からつくる健康へと健康に対する意識とともに、ハード面からも変容を図って、健康のまち宣言のように、健康は伸びる幸田の底力のスローガンが実現できるようなまちづくりに邁進していくことを強く希望し、質問を終わります。

○議長（笹野康男君） 町長。

○町長（近藤徳光君） 3点にわたってご質問をいただきました。

まず、1点目の健康の日の制定であります。制定がいいのか、どういう形がいいかはともかくといたしまして、日にちを指定をするということは、健康に対する意識を高めるということからいたしまして、私は大事であろうというふうに思います。県が第3日曜日ですよね。第3ということになると日にちが動くわけだ、日にちが。ですから、やっぱり日にちを、このところ、いろんなまつりでもそうでありますけど、第3土曜日だとか、日曜日という言い方をしますと、どうもそのこと自体不安定でしょ、わかりが悪い。ですから、やっぱり曜日にかかわらずきちっとして、例えば5の日とか、月1回ということ、1の日がいいのか、このことを実は先般、この部課長会の中でも検討することを指示いたしましたわけですが、できればそういう形で明確に日を指定をして、この日は幸田の健康の日というような形で位置づけがしたいなということを思っております。方法については、いずれにいたしましてもよく考えるわけであります。

それから、深溝の公園の名称については、そのとおりだと思います。健康問題を織り込むかどうかはともかくといたしまして、この地名を使うか、いずれにしてもあそこに人が集えて、憩い利用できるような、特に運動施設、先ほど環境経済部長、説明申し上げたわけですが、ソフト、2面を中心に、それから北の面は誉師池ですが、大池につながる散策路もできましたし、そういう面でまさに総合的な公園と申しましょか、そういう意味での、南部の拠点という意味での位置づけをした名前にしたいなというふうに思います。特に、広く来ていただくために、温泉の件にも指摘されましたが、運動をして汗を流した後は温泉も利用すると。そういう面で町がやるのではなく、先ほど環境部長申し上げたように、民間でしかるべき人が来ていただけると大変ありがたいな、そのことについての勧誘と申しましょか、については、私も働きかけにやぶさかではありませんし、そのような活用の方法も考えていきたいというふうに思っております。

何にいたしましても、この健康を含めてこうした意識付というのは極めて大事でありますので、単に名前であるとか、名称にこだわらず、またイベント、あるいは行事等々にも生かしていくような形で盛り上げと申しましょか。意識付を図っていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたい。

○議長（笹野康男君） 1番、酒向弘康君の質問は終わりました。

ここで、10分間の休憩といたします。

休憩 午後 1時44分